災害時の自助・共助を学ぶ
中学校の防災合宿を支援

　新潟地本（本部長　１陸佐　大倉正義）は３月１１日(木)、新潟市立小針中学校（新潟市西区）の防災合宿を支援しました。

　これは、同校が２学年の「総合的な学習の時間」の一環として行ったもので、１０年前の東日本大震災の発生日であるこの日、まず追悼セレモニーが行われ、続いて防災を再考する観点から各支援団体によるブースでの防災教育や実際に学校に宿泊する避難所体験が行われました。

　当日は新潟県内のテレビ局及びラジオ局が取材する中、２学年の生徒約１００名が参加しました。自衛隊からは新潟募集案内所（所長　３陸佐　阿部浩二）及び新潟地本広報室（室長　１陸尉　鈴木勝太）が、新発田駐屯地に所在する第３０普通科連隊の車両と隊員の支援を得て、防災学習ブース及び各種体験コーナーを運営しました。

　体験コーナーでは人命救助セットⅡ型の説明と器材操作を体験できるコーナーや大型トラックの荷台に実際に乗車し隊員又は避難者の立場になって乗り心地を体感するコーナー等を設けました。特に、生徒は見慣れない器材である破壊構造物探知機（先端部にレンズの付いた光ファイバーケーブル）に関心を示していました。これは地震などで倒壊した家屋の瓦礫の隙間に挿入し、中の状態を確認することができる器材で、実際に障害物の隙間にケーブルを通し内部を確認する体験をした生徒から驚きと感動の声が上がっていました。

学習ブースでは新潟所長が講師となり、災害発生時における自助、共助の重要性を説いた他、所長自身の災害派遣出動経験を振り返り生徒たちにリアルな災害の実態を話しました。その後生徒自身でもできる災害への備えとして、平素からの避難経路の確認や物資の準備を軽視せずしっかりと実施することが特に大事であることを強調しました。

参加した生徒からは「（人命救助セットⅡ型の説明を受けて）人を助けることは思った以上に大変なことだとわかった」「災害現場の話を聞いて、普段の準備がどれほど大切かということを実感した」といった声を聞くことができ、生徒たちの防災に対する意識の高まりを感じられた他、「自衛隊の人はとても防災に詳しく、いつでも出動できるようにしていることがすごいと思った」など自衛隊にも関心を持った声もありました。

新潟地本は、今後も各学校等の実施する防災教育等に積極的に参加し、子供たちの防災意識の向上に寄与するとともに自衛隊の活動にも興味を持っていただけるよう、広報業務に邁進していきます。